

水野 俊平 著
Shunpei Mizuno

しょうにっ かんろん
笑日韓論

Forest
2545
Shinsyo

はじめに——「嫌」「呆」「無」であるへらいなら、互いを「笑」え

出版社から本書の執筆依頼を受けたとき、正直、極めて気が重かった。

なぜなら、テーマが「日韓関係」であったからだ。

日韓関係が現在八方ふさがりであることは、韓国研究の末席を汚している小生が最もよく知っている。小生ごときがなにを書いても、事態はなにも変わらないのだ。今、両国の間にある問題は個々人がどうこうできる類のものではない。

それでも萎^なえる意欲を奮い立たせて本書の執筆をはじめたのは、研究者の端くれとして、昨今、日韓で起こっていることについて最小限のことを書き留めておくべきかもしれない、と思ったからだ。

小生が敬愛する中国の文学者・巴金^{ばきん}はこう言っている。

はじめに

「嫌」「呆」「無」であるへらいなら、互いを「笑」え

但它们却不是四平八穩、无病呻吟、不痛不痒、人云亦云、人说了等于不说的话、写了等于不写的文章。

(文章というものは、事なかれに終始するものだったり、病でもないのにわざと呻いたり、毒にも薬にもならないことだったり、人の言っていることを繰り返すようなものだったり、言っても言わなくても同じだったり、書いても書かなくても同じだったりするものではあつてはならない)

巴金の教えに従うなら、日韓関係に対して何かを述べる際にも、きれいごとを書き並べたり、ことさらに状況を樂觀的または悲觀的に描いたり、時流に乗って書いたようなものだったり、読んでも読まなくても同じようなものだったりしてはならないはずである。

本書では、昨今の日韓関係に関するさまざまな事象をどう見るべきなのか、そして、個々人が日韓の間にある問題をどう捉え、どう対処すべきなのかを述べていこうと思う。

小生の浅薄な知識と経験に基づくものであるから、大雑把で不完全なものであるが、少なくとも読者の方々が十分理解でき、かつ実践できる事柄だけをわかりやすく述べていきたい。

まずは、日韓の間で起こっているさまざまな事象をどう捉えるべきなのか、ということから述べる。

そして、日韓の間にはじつに数多くの嘘うそが語られているという現実について明らかにする。

さらに、そうした現実を踏まえて、個人はどのようなことができるのか、ということとを語っていきたい。それが、韓国学を専攻し、韓国に16年住み、今も韓国研究で糧を得ている小生の語るべきことであろう。

本書の書名は、現在の日韓関係には失笑するしかない、ということから編集者のご提案により『笑日韓論』とした。小生が失笑しているのは日韓関係であって、日本（人）や韓国（人）には失望も失笑もしていない、ということを書き添えておく。

はじめに

「嫌」「呆」「無」であるなら、
互いを「笑」え

笑日韓論●もくじ

はじめに——「嫌」「呆」「無」であるくらいなら、互いを「笑」え 3

第1部 日韓関係の不都合な現実

「韓国」はすでに専門家の専有物ではない／誰もが無視できなくなった韓国

15

不都合な現実①

「四大問題」という難攻不落の壁

韓国人の辞書に「日本人との妥協」はない／国際交流が特效薬になるわけがない！／日本人は「極右」だらけ！

20

不都合な現実②

「嫌韓本」「反日本」は

癒しにしかならない

100万部の大ベストセラー『日本はない』／盗作でも楽し
けりやそれでいい／『韓国はない(嫌韓本)』など数日で書け
る／「嫌韓本」「反日本」に群がる人は「癒し」を求めている

29

不都合な現実③

「韓流」は日韓関係に

変化をもたらさない

韓国を知らない韓流ファン／「日流」
も日韓関係に変化をもたらさない

39

不都合な現実④

「ヘイト・スピーチ」は韓国人にとって

痛くも痒くもない

日本語ヘイト・スピーチの影響力／
名著『ネットと愛国』が見逃したもの

45

不都合な現実 ⑤

韓国の「千年恨」は世界標準

日本人の忘れっぽさは世界から見ると異常？／時は「反日感情」も冷まさない／韓国人に「反日は1人もいない？」

52

不都合な現実 ⑥

韓国人は「日本人は謝罪していない」と思っている

本当は、のべつ謝罪している日本／韓国人が謝罪と賠償を要求しつづける2つの理由

62

不都合な現実 ⑦

どう考えても

真の日韓友好など見えない

つかず離れず、賢い関係を／専門家はあまり頼りにならない、という現実／日韓関係を考えるうえで知っておくべきこと

68

第2部 徹底検証！ねじ曲げられた真実

専門家も嘘をつく／差別していない差別語／日本人の呆れた善意／韓国由来のトンデモ日本論

75

検証①

「日本列島は沈没する」—— 韓国人

「日本沈没」を大真面目に検証スタート！／結論「日本列島は沈没しない」(そりゃそうだ)

88

検証②

「韓国人はトンスル(糞酒)を飲む」—— 日本人

ウンコを食べるのは性癖にあらず？／正しいトンスルのつくり方／ウンコや小便は中国や日本でも食された!?

93

検証③

「韓国人は人糞を舐める」—— 日本人

ウンコが甘ければ病は治らず、苦ければ治る／日本でも「糞舐め」は知られていた!?

100

「朝鮮時代の女性は

乳房を出して歩いてきた」

——日本人

社会問題となった「乳出しルック」／評価が二分された「乳出しルック」／日本にも乳出しルックはあった！

104

「韓国人の陰茎は

世界最小9センチ」

——日本人

陰茎の長短は日韓対立の火種／平常時に引つ張った長さだった！（どこを、どのように引つ張ったかは謎）／長けりゃいいってもんでもない（はず）

111

「美空ひばりは韓国人」

——韓国人

「韓国人の父親のために生涯で一度だけ韓服を着た」／日本人によって独り歩きさせられる演歌の女王／それぞれの在日認定の思惑

118

「北野武は朝鮮人」——本人&韓国人

バカヤロウ！ ジョクダンじゃないよ！／
たけし本人はどっちでも良かった？

「東郷平八郎は李舜臣に

日本海海戦の戦勝を祈った」

——日本人&韓国人

東郷「李舜臣に比べれば自分は下士官に値しない」／誤解の原因は司馬遼太郎の調査不足だった／韓国で「事実」となった司馬遼太郎の勘違い

「天皇は百済語で話す」——韓国人学者

専門家や有識者が巻き起こす珍事／「学界騒然」の『日本語の正体』から学べること／世紀の大発見!?／読むのも面倒くさいほどのこじつけのオンパレードVol.1／読むのも面倒くさいほどのこじつけのオンパレードVol.2／『日本語の正体』の正体

「ハングルはチベット文字の

——日本人学者

影響を受けて生まれた」他

韓流時代劇の検証本／「朝鮮史の真実」の嘘PART
1／「朝鮮史の真実」の嘘PART2／エピソード
のパラドックス(クレタ人がクレタ人はみな嘘つき)

第3部 日韓問題を語るための作法

政府もマスコミも期待できない／自分によるべは自分

検証結果は韓国語で発信すべし

「資料がない」「韓国語がわからん」は泣き言／す
でに韓国の民間人はやっている！／言語学習に
は下心が必要だ／韓国人と闘うための武器

作法②

「好き・嫌い」を前提に

真実の究明をすることなかれ

好き嫌いをすぐ口にする人間は幼稚

／韓国を過小評価する半可通たち

192

作法③

「贖罪意識」と検証作業を別にすべし

植民地支配は「悪」論／「贖罪意識」の罪

198

作法④

できるだけ感情を排して

淡々と持論を語るべし

侮蔑的な態度をとる人間は相手にするな／議論の範

囲を拡大させるな／話が通じないのは当たり前と思

え／「しっかりとメリハリをつけた議論」の実例

203

あとがき——真実は日韓の中間にある

213

カバー・帯デザイン◎河村 誠

カバーフォーマットデザイン◎Panix(keiichi saito)

帯写真◎AFP=時事

DTP・図版作成◎株式会社システムタンク(白石知美)

本文デザイン・帯コピー◎フォレスト出版編集部

第**1**部

日韓関係の不都合な現実

「韓国」はすでに専門家の専有物ではない

これまで、日韓関係が語られる際には、現実を直視するよりも、現実はどのようにあるべきなのか、という文脈で語られることが多かった。しかし、現実を正確に把握せず、理想ばかり語っていると具体的に具体的な策が生まれるはずがない。

第1部ではまず、日韓の間で起こっているさまざまな事象をどう捉えるべきなのか、ということから考えていく。言い換えれば、日韓関係の厳しい現実をどう認識して、どう解釈すべきなのかという基本的な問題である。

まず、「韓国」はすでに専門家の専有物ではない、ということを確認する必要がある。

一般の人々が韓国について考えざるを得なくなつたという現実を受け止めるべきだ、ということだ。

小生が韓国と縁を持ちはじめた80年代中盤には、韓国について関心を持っている日本人などほとんどいなかった。関心を持っていたのは、政治家、外交官を除けばジャーナリスト、市民運動家、韓国専門家、好事家（物好き）のいずれかに属していた。

加えて、マスコミを通して日本に流れてくる韓国関係の情報は極めて限られており、おまけに政治・経済分野に偏っていた。

そして、一般の人々はマスコミの報道を通してしか韓国の情報を得られなかった。そもそも、大して関心がないから、とくに得ようとも思っていなかった。

結局、韓国からの情報に直接することができたのはジャーナリスト、市民運動家、韓国専門家、好事家だけだった。

まさしく、韓国に関する情報、韓国に関する言説は彼らの専有物であった。韓国について知ろうとすれば彼らの発する報道、彼らの書いた本に頼るしかなかった。

90年代の中盤までこうした状況が続く。

誰もが無視できなくなった韓国

90年代後半におけるインターネットの出現と普及は、前述のような状況を一変させた。その後の変化については長く語る必要はないだろう。

今では誰でもネットを通じて韓国の情報を得られるようになった。そして韓国を好くにしろ、嫌うにしろ、誰もが韓国について意見を持てるようになったし、発信することも可能になった。

直接、韓国人と接して、意見を交わすこともできるようになった。そして、一般の韓国人の声も、否応なしに一般の日本人に届くようになった。

その結果、さまざまな摩擦と葛藤かつしやうが起きている。

書店には「嫌韓本」が山積みとなり、ネットには韓国(人)に対する憎悪があふれている。そして、そうした状況は韓国人の「反日感情」を刺激し、「反日行動」に走らせ、それがまた「嫌韓感情」を煽り立てている。

これからは、かつて韓国になんら関心を持っていなかった人々がつくり出したものだ。ジャーナリスト、市民運動家、韓国専門家など、過去、韓国を「専有」していた人々

がつくり出したものではない。

彼らはすでに「主役」ではないのだ。

これまで韓国に縁のなかった一般の人々が、韓国について考えざるを得なくなった理由はこちらにある。

だからこそ、今、一般の人々が韓国についてどう考えるべきなのか、もっと正確に言えば、韓国について考えるときに、どのような心構えを持つべきなのか、ということを考えてみる必要がある。

「四大問題」という難攻不落の壁

韓国人の辞書に「日本人との妥協」はない

現在、日韓間で摩擦と軋轢あつれきを起こしている問題とは何だろうか？

日韓間にはさまざまな問題があるが、とりわけ大きな葛藤を起こしているのは4つの問題である。

その問題とは、すなわち竹島（独島）の領有権、靖国神社参拝、歴史教科書、従軍慰安婦およびそれに付随した諸問題である。

これを、小生は便宜上「四大問題」と名づけた。

日本人は政治や外交の問題は、必ずしも個人が関心を持つ必要はないと思っているかもしれないが、韓国人はそうは思わない。

ゆえに日韓関係や韓国人の対日感情を考えると、**「四大問題」**は絶対に避けては通れない。

日本人の中にはこうした現実からあえて目をそむけ、「悪いのは政治家で、一般の同志で語り合えばうまくいく」とか、「政治は政治、外交は外交、普通の国民同志ならわかり合える」などと太平洋楽を並べている向きがいる。

とんでもない勘違いである。

「四大問題」について韓国人が妥協することは絶対にない。**「四大問題」**に関する主張は韓国人にとって**「修身」「国民道徳」**（韓国では**「国民倫理」**と言う）のようなもので、これらの問題で日本（人）と妥協するような輩は**「親日派Ⅱ売国奴」**であるからだ。なお、**「四大問題」**が**「日韓基本条約」**で解決済み、などという日本人の弁明は、責任逃れのための詭弁きべんに過ぎないと思っっている。

もし、**「四大問題」**について個人的に妥協していたとしても、絶対に公の場で口にすることはできない。要するに、**「四大問題」**に関して、韓国はすべて正しく、日本はすべて誤っている、というのが韓国人にとって**「正しい」**答えだ。

それ以外の答えはない。

ここでは、それを良し悪し、好き嫌いの次元で述べているのではない。

あくまで、ありのままの厳しい現実なのだ、ということを書いてあるだけだ。

冒頭では「韓国」はすでに専門家のものではない、と述べた。

つまり、一般の人々も否応なしにこの現実と向き合うほかはないのである。

国際交流が特効薬になるわけではない！

「そんなことはない、韓国人との付き合いはあるが、そんな問題には触れたことはない」、あるいは「うち（の団体、学校……）は韓国と交流があるが、政治的・外交的問題とは無関係で、円満な交流が続いている」などという反論があるかもしれない。

ただし、そういう場合は、あえて問題に触れないか、交流が表層的なものであるか、どちらかである。

「あえて問題に触れない」ケースとは、韓国人が場の空気を読んでいない場合である。

たとえば、商談やスポーツ交流においては、大事なのは取引や試合であり、日韓の懸

案事項ではない（ただし、交流が目的ではないスポーツの国際公式試合などは、この限りではない）。

だから、あえて触れないのである。だからといって、韓国人が「四大問題」で日本に譲歩するか、というと絶対にそんなことはない。

「交流が表層的である」ケースとは、交流が儀礼的な場合である。

たとえば、高校の修学旅行や大学の研修旅行で韓国に行つて、ちよつと向こうの学生と交流するぶんには摩擦は起こらない。基本的にゲストとホストの関係なので、良いお友達にもなれるだろう。

一方、付き合いが儀礼ばつていないところでは、韓国人は（個人差はあるが）持論を容赦なく展開する。

たとえば、偶然乗ったタクシーの運転手から「独島はどっちの領土なんだ!？」と議論をふっかけられた日本人は多いはずだ。

個人的な「付き合い」や、儀礼的な「交流」がうまくいつているからといって、韓国人が「四大問題」で譲歩する、ということは絶対にないのである。

「四大問題」を解決するか棚上げしないかぎり、いくら「付き合い」や「交流」がうまくいっていても、日韓関係が根本的に改善することはない。

「地道に国際交流を進めていけば、日韓関係も少しずつ良くなっていくんじゃないか」というご意見をいただくこともある。

しかし、残念ながら甘い見方である。

そうした「乙女の祈り」は通用しないのだ。職場でも、地域でも、日韓交流の現場にいる私が言うのだから間違いない。

もちろん、国際交流をやらないうより、やるほうがずっとよい。

交流前に持っていた先入観やステレオタイプが、交流後に変化したという話もよく聞くし、交流後に行われた調査でも実証されている。

交流に参加した若者たちの視野が広くなり、貴重な思い出づくりや人生経験になることも事実である。交流が一過性にとどまらず、学术交流や人材発掘に結びついたという事例も数多い。

しかし、すでに述べたとおり、「交流」というのは大部分の場合、当たり障りないものである。

逆に言えば当たり障りないから、交流になるのである。額に青筋立てて、口から泡を飛ばして激論を交わす、というような「交流」はあまり聞いたことがない（まったく事例がないわけではないが）。

当たり障りない交流では日韓間の敏感な話題に触れることもないだろうし、「四大問題」の核心に触れるような討論があるはずもない。オヤジ同士の交流は単なる飲み会とゴルフコンペおよび女遊び、ということも多い。

当たり障りない交流だから、いいお友達にもなれるだろう。そのかわり、日韓関係をどうこうするというような効果は望みにくい。

日本人がどう思おうと、韓国人にとって日韓間の重大事は、あくまで「四大問題」である。日韓の自治体同士の国際交流が政治情勢によってしばしば中断するのも、このためだ。韓国側からしてみれば、日本人との国際交流などより、竹島（独島）問題で断固とした意思表示をするほうがよっぽど大事なのである。

国際交流に過大な期待をしてはならない。

期待しすぎると必ず失望するのが人間関係の常である。

国際交流もそれと同じだ。

日本人は「極右」だらけ！

基本的に韓国人は「四大問題」に同調してくれない日本人とはお友達になりたくない、
と思っている。

これらの問題について韓国人は基本的に「自分たちの言うことが絶対正しく、日本人
の言うことはデタラメで間違っている」というスタンスである。

反論は絶対に許さない。

その根拠についてはあまり知識もないことも多いが、韓国人ならば、そう主張するの
が当然だと思っている。

日本人の主張の根拠については、それ以上に知らないことも多いが、どうせ間違っ
ているので知る必要もないと考えている。



ソウルの日本大使館前での抗議運動（2014年3月1日）。慰安婦像の周りを朴槿恵大統領、オバマ米大統領、メルケル独首相、習近平総書記のお面を被った人たちが取り囲み、国際社会へアピール。©EPA＝時事

そして、自分たちの考えに同調してくれない日本人は「極右（または右翼）」だと思っている。

ここで言う「極右」とは、「黒塗りの街宣車に乗って、大音響で軍歌をかけて走り回る集団」を指す用語ではない。一種の罵倒用語である。

「自分は韓国が好きだから、韓国人と仲良くなれるはず」などと甘いことを考えているみなさん、表層的な付き合いをするだけならば、あながちそれは誤りではない。しかし、こと「四大問題」に関しては、全面的に韓国の軍門に下らないかぎり、あなたも「極右」なの

です！

それじゃ、「極右」じゃない日本人になるにはどうしたらいいのか？

保坂祐二先生ほさかゆうじや加藤嘉一かとうよしかずさん（検索してみよう！）のようになるしかないのである。

これは、かなりハードルが高いレベルである。

別に、お二人の身の処し方を批判しているわけではない。中国人や韓国人に好かれるためには、全面的に彼らの言うことに賛同しなければならぬ、ということだ。韓国人と向き合うには、厳しい現実じつじが立ちはだかっているという厳然たる事実を述べているだけだ。